たいよう

発行所
太洋基礎工業㈱
たいよう新聞委員会

最前線レポート

発注者
ユーラスエナジーホールディングス

工事件名
ユーラス矢吹中島ソーラーパーク建設工事

元請
戸田建設株式会社　東北支店

場所
福島県西白河郡矢吹町中島村地内

工期
平成二六年六月二五日～平成二六年一〇月一〇日

工事概要
ソーラーパネル架台用基礎杭打設工事

使用杭
H一〇〇×一〇〇×六×八

杭長
三・〇m～五・〇m

杭数
一七七六〇本

打設
モンケンによる打撃方法

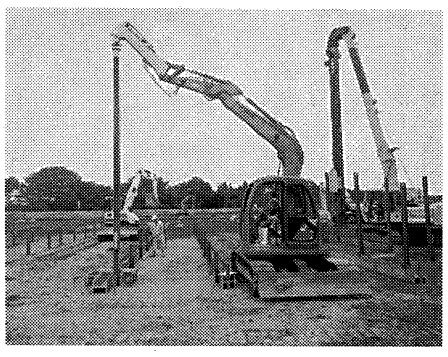
定規材
H三〇〇㎜×三〇〇㎜
L＝一二・〇m

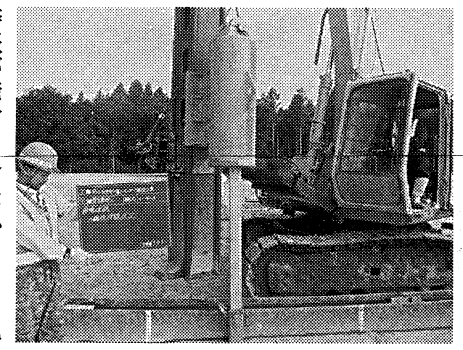
建込金具
□一二五㎜×一二五㎜
L＝〇・三五m

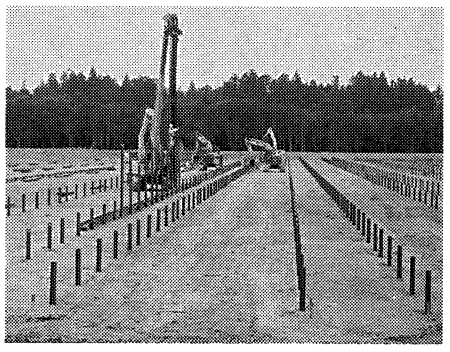
本現場は福島空港より南西にある福島県矢吹町と中島村にまたがる二八ヘクタール（東京ドーム約六個分）の広大な敷地に約五万枚、発電規模は八MW（一般家庭約三〇〇〇世帯分の電力供給）と年間約五五〇〇トンのCO2削減効果が見込まれる大規模太陽光発電所建設に伴うパネル架台用基礎杭を設置するものです。

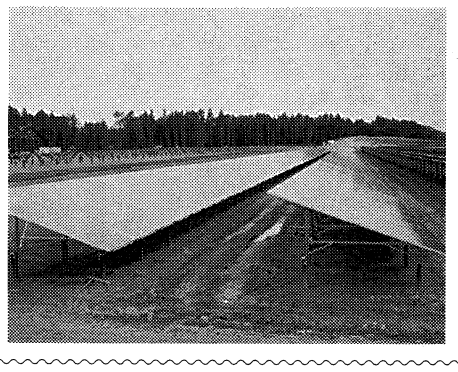
今年四月下旬に戸田建設（株）東北支店二宮所長様からお話を頂き、初めて施工する工事でしたので豊住顧問をはじめ伊藤社長、土屋神守研究開発センター長に相談し、施工機械、施工方法等色々ご指導頂き自ら設計・製作して頂きました。当初、施工地盤が柱状図よりN値一から三程度の軟弱地盤の想定で乗り込みましたが、実際はN値も高く製作した機械では打設不可能でした。乗り込み前の造成途中に現場確認したところ、殆どが切土で粘性が高い粘土層でしたので製作した機械での打設に不安が募り保険のつもりでDAK―150（通称アトミック）と一・二tのモンケンを準備しました。その結果、保険が効を成しました。

六月二五日に現場に乗り込み五日間試験施工をさせて頂き定規の設置方法・打設方法を検討しました。施工方法は逃げ杭に水糸を張り〇・四五㎡クレーン仕様のバックホウでH型鋼（定規）を計画寸法に平行に並べ杭芯を出し、建込用BOXを取付け〇・七㎥クレーン仕様バックホウでH型鋼を建込み、貫入不可になるまで垂直を確認しながら圧入し杭頭レベルを測量して一・二tモンケンで計画高まで打込むという単純作業ですが、初めは一本の定規設置と杭芯五カ所を出すのに三〇分、H型鋼の建込みは一本当り一〇分、モンケン打込みも一〇分と一日当たり一五〇本程度（計画では二四〇本）しか施工出来ませんでした。原因は職員、作業員全員が初めての作業で慣れていなかった事と初期の施工場所は調整池内で梅雨と台風により連日大雨警報が発令された中、まさに池の中での作業となった為に作業性が悪く日進量が計画の半分しか出来ませんでした。しかし、徐々に作業にも慣れ梅雨も明け、作業性が良くなり日進量が計画の約一・五から二倍になり、九月二七日に一万七七六〇本最後の杭を打設した後に職員、作業員全員でその杭を中心に記念撮影をして今までの苦労が喜びに変わりました。









当初、現場所長からキツイお言葉を頂き心が折れた時期も有りましたが、所長のご指導のお蔭で工期内に無事完了する事が出来ました。また一一月から当現場の隣村でもメガソーラーの杭打ち工事を受注する事ができました。施工方法は異なりますが、この現場で培ったものが活用できるので職員、作業員全員全力で良質工事を行いたいと考えております。

最後に戸田建設（株）現場所長様をはじめ現場担当者様には色々ご迷惑をお掛けし誠に申し訳ありませんでした。最後に温かいお褒めのお言葉を頂き有難うございました。また同じメンバーで現場をご一緒させて頂きたく思います。また、豊住顧問、伊藤社長、土屋センター長にも色々ご指導頂き有難うございました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

東京支店　東北営業所
所長　大内　和彦

声援

秋になり涼しく過しやすい季節になりましたが、御嶽山の噴火（水蒸気爆発）で犠牲者の出る大災害が起きてしまいました。活火山で再噴火する可能性があるにもかかわらず、危険勧告出来る程の予知予測は難しいようです。また、大型の台風一八号が静岡から上陸。茨城を抜けて太平洋に戻りましたが、進路、強さなど予測が出来て備えもしましたが、被害が出てしまいます。自然災害には予知予測ができても被害が出ない、万全な対策は出来ないようです。（災害で亡くなられた方々には心よりご冥福をお祈りします）

今年四月から消費税が八％に上がり、住宅着工棟数も減る事を予知予測していましたが、開発部（基礎補強部）及び協力店は苦戦しています。人口減少及び住宅の空家率が一三％ともいわれ、開発部周りで聞こえる話は右肩上がりに思える話題は大変少なくなっています。少し前までは築二〇～三〇年で住宅の建替えがありましたが、今は建替する時期が倍以上になり、RCマンションの建替需要も進まず、着工件数が減るのは当たり前の時代かもしれません。

少し立ち止まって回復を待つと自然に元の仕事量に戻っていた時代もありましたが、今は状況が変化してどんな仕事でも積極的に動かないと元には戻らないと思います。全体に仕事が減りましたが、無くなるわけではないので、余り無理する必要はないのかもしれませんが、今後は少し違った方向から業務内容を見直し、変えていく必要があるでしょう。状況が厳しい時がチャンスだとよく言われますが、本当にそうかもしれません。今までは工事の安全、品質、納期、工程管理が重要な業務でしたが、今後は次ぎの仕事を受ける意識も含めた工程管理が必要になるのでしょう（次工程がお客さま、基礎補強工事の次工程は基礎業者、工事完了の次工程は新規工事）。会社として新工法開発、業務改革等での工期短縮、値打価格等も大事ですが、会社の活力及び発展には現場力が非常に大事だと思います。そこで現場での基本業務、安全行動、施工品質、納期厳守、現場美化、対客近隣マナー、信頼の現場管理等のもう一段レベルUPを目指しましょう。現状満足ではでは何も変わりません。現状が悪いのではなく、現状をもっとよくする積極的な意識と見つけた問題点を変革する実行力が一番必要になると思います。まず当社社員、協力店、材料納品業者、リース会社等工事に携わる全員で前向きな改善意識を持って業務を見直せば、現場のムリムラが見えてきます。どんな小さな事でも皆で改善していくとその改善意識と改善実行力はお客様に必ず伝わり、他社に負けない信頼となります。お客様に喜ばれる現場が出来て、そこに新しい現場文化が生まれれば、発展が見えてきます。小さな変革でも凄い努力が要りますが、成功した時は仕事の楽しさは倍増すると思います。問題を解決しながら個人力も上げ、この厳しい時期を盛り上げましょう。現場で小さな問題にも目を向けた、変革意識、変革実行力、社員（個人力）と協力業者の和が今後の発展キーワードだと思います。

名古屋支店　開発部
顧問　福島　実

共生共遊

何気なくテレビの音声を聞いていてもレーサーは前しか向いていない、と富士重工のコマーシャルが流れてきました。常々言葉の重み、国語の大切さを感じてきましたが、短いフレーズの中に企業の立ち位置とか経営の方向性を示すコマーシャルに興味を持ってきました。

若い頃同じ自動車メーカーのトヨタ自動車が、いつかはクラウン、このコマーシャルを聞きながら早くクラウンに乗れる様になりたい私の大きな励みとなっていました。その他にも男は黙ってサッポロビール。多感な青年時代、辛いことも苦しいことも多くありました。愚痴は言うまい、泣き言は言うまい、艱難汝を玉にすると口ずさみ、男は黙ってサッポロビール。協和発酵工業（現協和発酵キリン）は、自然は大いなるホスピタル。この文には職域での共生以外に自然との共生、環境への配慮を学びました。当社のお得意、家に帰れば積水ハウス。ほのぼのとしたメロディーに合わせて私の孫が口ずさんでいました。前しか向いていないの文からは前向きな会社というイメージが伝わってきます。家に帰れば積水ハウスからは家は帰るところ、ホッとするところ、家族の元に帰る尊さ等が浮かんできます。

我が愛する太洋をどう表現したらよいでしょう。そこで考えてみました。

・土の中、困った時は太洋基礎
・地中の事、頼りになるのは太洋基礎
・地下工事、相談するのはまず太洋

イメージも大切です。アクセサリーも必要です。良いフレーズを皆で考えてみませんか。

顧問　豊住　満

広島災害復旧のボランティア活動を行いました

八月二〇日午前二時三〇分頃、窓を開けると叩きつけるような激しい雨、凄まじい雷が数秒ごとに落ち、眠りを妨げられ目を覚ますと目の前は戦争映画の様でした。約一時間は続いたでしょうか。

朝テレビをつけると災害のニュースが流れていました。それはいつも見慣れた景色が一変した私が住んでいる広島市安佐北区可部、事務所、寮のある安佐南区八木の映像でした。急いで家を出発し職員、協力会社の社員の安否を確認しながら事務所に向かいました。普段なら一五分程度で着く通勤路が国道の通行止め等により、三時間も掛かり、対向車は泥だらけの車ばかりでした。

今回の広島市北部を襲った土石流災害被災地の八木三丁目地区に私達の寮はあります。八月一九日夜から二〇日未明にかけての記録的な豪雨は今までに経験した事のない想像を絶するものでした。明け方四時以降は停電で真っ暗です。寮の周辺では消防車、救急車、パトカーのけたたましいサイレンの音、前の道路は濁流が流れ、周囲は泥の臭いが立ち込め、山鳴りがしていました。夜が明け周辺の風景は一変していました。

寮の一階は土石流と駐車場には大量の泥水が押し寄せており、周辺の状況確認に動きましたが危なくて大変でした。少し落ち着いた午後からアパート周辺では早速高校生ボランティアが活動を開始していました。私と大賀部員二人も午後から寮の周辺の泥掻きを夕方まで行い、やっと車を出すことができました。

週明けの二五日から神守研究開発センターからボランティア活動に参加して頂いた豊住顧問、古川係長、吉田部員と手分けをして土砂撤去作業に取り掛かりました。古川係長と私が活動した八木地区では住人であるインド人のジョガニ・ヒテシュ氏が前日から手配していたバックホウ二台を借りて土砂撤去作業を開始しました。作業をしている近くではまだ遺体収容作業が行われていました。

二六日からは協力会社の吉野工務店の吉野社長と社員二名でバックホウ一台の応援を受けました。又、ボランティアのリーダーと相談し重機と人力の配置を効率よく配置した結果、飛躍的に撤去作業が前進しました。結局三日間で三ヶ所の土砂撤去作業を終えることができました。

午後から坂野部員と大賀部員が住む寮の周りの泥掻きを行い、私も夕方から少しですが手伝いに行きました。そのまま土砂が崩れた山側まで歩いて行くと、巨大な岩が家の玄関を潰し家の中は土砂が溜まっていました。

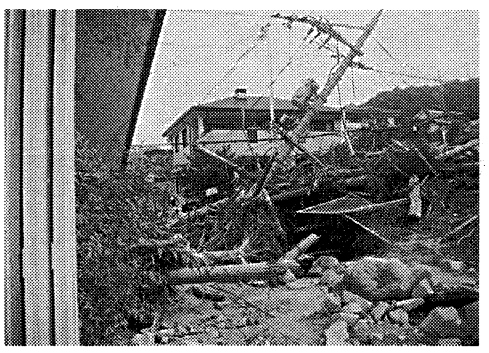
二二日の朝、伊藤社長、加藤支店長から連絡があり、豊住顧問が広島に災害支援に明日の朝出発すると連絡がありました。翌朝八時に豊住顧問から、これから神守研究開発センターを出発すると連絡があり、八時間かけクレーン付四ｔトラックで当社製一ｔクレーン付クローラ運搬車、ハイウォッシャーを積み、一六時頃、豊住顧問、古川係長、吉田部員の三名が無事広島に到着しました。到着後すぐに古川係長、吉田部員の二名は被災現場を見に行き、クレーン付四ｔトラックの進入経路等の確認に行かれました。

翌日の八時から他のボランティアの方が借りていた重機を使い、土砂をダンプに積み込む作業を古川係長、大賀部員が行い、ダンプの待ち時間に近隣住宅の駐車場の土砂撤去も行いました。吉田部員は、積和建設中国（株）様の応援で土嚢に詰めた土砂の運搬を当社製一ｔクレーン付クローラ運搬車のオペとしてお願いしました。通路が川のようになっている事で二ｔダンプでは入れない場所での作業でしたが、大型土嚢も吊り上げて運搬できる機械なので大活躍した様でした。

土砂災害発生からこの記事を書いた九月三日で二週間近くが経過します。これまでに確認された死者は七二名、残る行方不明者二名の捜索が警察、消防、自衛隊で今も続けられています。少しでも早い発見を祈ります。

また、一部の店で営業が再開されるなど復旧の動きが進みつつあります。今後は、広島出張所職員、協力会社とできる範囲で義援金、災害ボランティアなど参加して行きたいと思います。最後にボランティア活動に協力して頂いた豊住顧問、神守研究開発センターの古川係長、吉田部員に感謝申し上げます。

大阪支店　広島出張所
所長　新宅　弘和



活動開始当初は呆然とされていた被災者家族の表情は撤去作業が進むにつれて明るくなりました。別の被災者は家を捨てて他に移り住もうと考えていましたが、ボランティア活動見ていたら家を修復してこの地でまた頑張る決心がつきましたと言って下さいました。改めてボランティア活動の大切さを実感することのできた三日間でした。

復旧活動はこれからです。時間の許す限り地域住民としてボランティア活動に参加したいと思います。ジョガニ・シュテヒ氏と参加して頂きました皆様有難うございました。最後に亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りいたします。

大阪支店　広島出張所
坂野　寿朗

八月二〇日の午前五時半に起床。前日の晩から続いていた豪雨、雷によっていつも観るベランダからの風景が一変していました。何が起きたのかと寮から外に出ると玄関前、駐車場は一〇㎝～一五㎝厚の土砂、山頂からＪＲ沿線に向かって泥水が勢いよく流れていました。また緊急車両のサイレンが鳴りやむ事がなく、近隣住民も何が起こったのか定かではない様子でした。寮が停電であったため、早めに出勤してニュースを聞いている と広島で土砂災害が起きたことをその時知りました。時間が経つにつれ、自衛隊、災害ヘリ、報道カメラマンなど慌ただしく異様な雰囲気でした。

八木地区の山の麓に寮があり、幸い被害が少なかったものの災害情報を聞く度に他人事とは思えず、被害が少ないことを祈るばかりでした。災害当日の午後からは何か協力できることがないかと坂野部員と私の二人で寮の周りの泥掻きをしました。泥掻きを行う途中で夏休み中の学生さん達が泥だらけになりながら土や石を道路の端へ持って行き、歩行者用通路を確保していました。

八月二三日一六時頃、豊住顧問、神守研究開発センターの古川係長、吉田部員の三名が災害ボランティア活動のため、クレーン付四ｔトラックで広島まで来て下さいました。古川係長、吉田部員の二名はすぐさま被災現場を見に行きました。

翌日はクレーン付四ｔトラックに積んでいた当社製一ｔクレーン付クローラ運搬車、ハイウォッシャーをボランティア活動で効率よく土砂撤去できるように下ろしました。現地ではボランティア活動に来ていた方がバックホウを、地元業者の方がダンプを手配して土砂撤去作業を行い、バックホウで取り切れない分は人力でダンプに積込みました。

また、積和建設中国（株）様から一ｔクレーン付クローラ運搬車の要請があったため、吉田部員がオペとなり別々の行動となりました。

二五日以降は仕事の合間を縫ってボランティア活動を行いました。近隣住宅の土砂撤去に大方目処が付くと住民から感謝の言葉を頂きました。とても嬉しかったです。復興支援のため、被災者のためにボランティア活動、募金などできる限りの行動を行っていきたいと思います。

最後に名古屋からボランティア活動に参加して頂いた豊住顧問、古川係長、吉田部員、誠にありがとうございました。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

大阪支店　広島出張所
大賀　香月

晴天の下、盛大に底曳き網

平成二六年九月二一日、愛知県蒲郡市の東幡豆港で底曳き網が開催されました。前日までの天気予報では台風の影響で雨と波の状況が懸念されましたが、当日は晴天に恵まれました。朝は少し肌寒かったのですが、日も出てくると暑いくらいで波も穏やかで絶好の底曳き網日和となりました。今回は一二人乗りの船三艘に乗る参加者と陸で釣りやバーベキューをする参加者に別れ、私は底曳き網の船の方に参加させて頂きました。

船は六時半出港予定でしたが、六時頃には大勢の方が集まり、皆張り切っていました。船が出港すると漁場まで小一時間近くかかりますが、鏡の様に波の無い三河湾をクルーズするだけでも爽快です。船にはトイレも完備され、女性や子供さんでも楽しめます。その上船上では七輪が用意してあり、オオアサリ、イカ、シャコなどが焼かれて振舞われたため、それを肴にお酒や話も弾みあっという間の時間でした。

漁場に着き底曳き網を下ろして暫く走った後、網を上げると沢山のシャコが取れ、それ以外にも渡り蟹や車えび、カレイなどが取れました。網が上がる度に網が開けられた所に乗船している方全員が集まり、取れた魚をより分けるのが宝探しのような感じで大変盛り上がっていました。

港に戻ると釣り、バーベキュー参加者の方も集まっていて、堤防では大人に混じって多くの子供達が釣りを楽しんでいました。恒例のバーベキューも始まっていて、焼きそばや焼肉など沢山の料理があり、どれも美味しく頂きました。食後には底曳き網で取れた魚が参加者に分けられ、前評判どおりシャコや魚でクーラーボックスが一杯になりました。楽しい時間は過ぎるのも速く、料理も無くなったため閉会となりましたが、日常では船に乗る経験など無い中、良い体験ができました。またバーベキューなど美味しく食事ができ楽しい一日となりました。

最後になりますが、今回のイベントの企画をして下さった豊住顧問をはじめ、いつも準備と美味しい料理を用意して下さる神守研究開発センターの皆様、本当にありがとうございました。

静岡支店　開発部
有馬　陽介

共済会だより

☆新しい仲間

九月一日
増田　光信
名古屋支店　調査部

九月一六日
宮城　恒弘
九州支店　工事部

九月二〇日
丹後　強志
東京支店　工事部